

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	竹田市立岡本小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	0	4	8	
児童数	7	7	4	5	4	11	0		38

・研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりが生き生きと表現し合える子どもの育成  
～国語科と他教科との関連による学習過程の工夫～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・国語科等

(選択した理由)

本校の子どもたちは、自分の気持ちや考えを言葉で表現すること、みんなの前で発表することに消極的な傾向が見られる。自己表現力については新学習指導要領でも「互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う能力の育成」を重視して、新たに「伝え合う力を高める」ことを目標に位置づけている。自己表現力はこれからの時代に生きて働く学力の源をなすものであり、本校の子どもたちにとって必要不可欠な学力である。

昨年までの実践では、体験を意図的に仕組み考えや思いを発表させたり、発表の場や機会を多く設定したりすることなどで子どもたちの自己表現力をある程度高めることができた。しかし、授業等で取り組み培った力が、他の学習や生活等に生かされるまでには多くの積み重ねが必要となる。

診断テストをはじめとした実態調査などからみても「読み取ったことを自分の言葉で表現したり、感想や意見を述べ合ったりすること」は、まだ不十分である。

そこで、これまでの研究成果や児童の実態から実施学年を全学年とし、国語科を中心にして他教科との関連を図りながら研究を進めることとした。

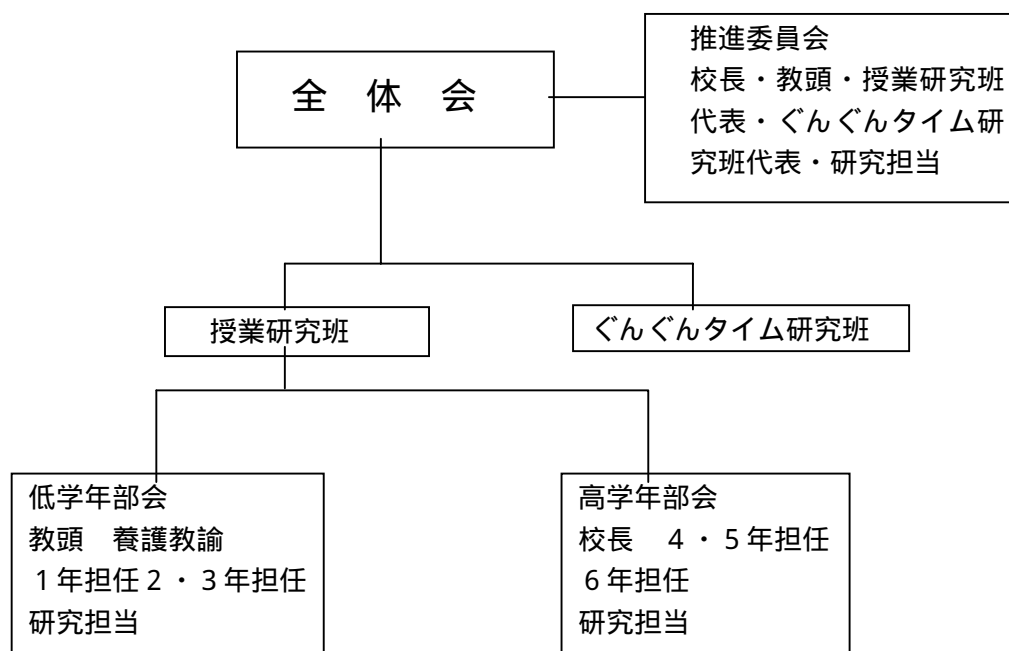
(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ</p> <div data-bbox="443 271 1241 376" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>一人ひとりが生き生きと表現し合える子どもの育成 ～子どものイメージを広げる詩教材を通して～</p></div> <p>研究の見通し(仮説)</p> <div data-bbox="347 439 1337 544" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>一人ひとりに豊かな体験的な活動を取り入れた学習過程の工夫をすることにより,自分の思いを表現し,生き生きと伝え合える子どもが育つであろう。</p></div> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 児童の実態と学力の把握,分析,研究主題,仮説の設定及び分析</li><li>・ 体験活動を生かした学習過程のあり方,個に応じた指導方法,指導体制の工夫</li><li>・ 学力向上対策として取り組むべき手だてや実現可能性等について検討</li></ul>
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">       一人ひとりが生き生きと表現し合える子どもの育成        ～国語科と他教科との関連による学習過程の工夫～     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、サブテーマを下記の理由により変更した。       <ul style="list-style-type: none"> <li>①「生き生きと表現し合える子ども」の姿を「考えたことや伝えたいことを相手にわかりやすく話すことができる子ども」ととらえ、音声言語による豊かな表現力を目指すには、実践範囲を詩教材からもっと広げる必要があると考えた。</li> <li>②表現力をつけるためには、国語の授業だけでなく他の教科や活動と関連づけながら指導していくことが必要であると考えた。</li> </ul> </li> </ul> <p>研究の見通し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">       目的や意図にあった表現の仕方を身に付けさせ、一人ひとりに応じた支援を工夫すれば、自分の思いを表現し生き生きと伝え合える子どもが育つであろう。     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説についても、サブテーマの変更にともない変更した。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <p>本年度の研究の内容は、次の項目である。</p> <p>(1) 国語科の授業の充実(授業研究をとおして)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な表現方法や表現する場の工夫       <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習過程の工夫 (1時間の授業にどのように表現する場面を位置づけるか)</li> <li>・個に応じた指導方法 (1時間の授業でどのような支援を工夫していくか)</li> <li>・評価の工夫 (指導計画と評価計画 補助簿の作成 振り返りカード アドバイスカードでの相互評価)</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 国語科と他教科との関連づけ(授業研究をとおして)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科で身につけた討論や発表等の方法を学級活動や総合的な学習の中で活用する       <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し上手」「聞き名人」の意識化、日常化</li> </ul> </li> </ul> <p>(3) ぐんぐんタイムの充実(集会活動を通して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月曜日～計算力の定着をねらう時間</li> <li>・木曜日～「話す・聞く」活動として、発表やスピーチ等に当てる時間</li> <li>・金曜日～漢字の読み書きの定着をねらう時間</li> </ul> <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書活動への取り組み</li> <li>・実態把握のための標準テストの実施(国語と算数の実態把握・分析)</li> </ul>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>一人ひとりが生き生きと表現し合える子どもの育成 ～国語科と他教科との関連による学習過程の工夫～</p> </div>
	<p>研究の見通し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目的や意図にあった表現の仕方を身に付けさせ、一人ひとりに応じた支援を工夫すれば、自分の思いを表現し生き生きと伝え合える子どもが育つであろう。</p> </div>
	<p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 国語科の授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験や多様な表現方法を取り入れていく工夫</li> <li>・補助簿を活用し、子どもたちをどう支援するか</li> </ul> <p>(2) 国語科と他教科との関連づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科で学んだことをどう他教科に波及させるか</li> </ul> <p>(3) ぐんぐんタイムの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが取り組みやすい環境整備</li> </ul> <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準テストを通しての実態の継続的把握・分析</li> </ul>

### (3) 研究推進体制



・今年度は、研究の諸課題を解決するために、授業（理論）研究班とぐんぐんタイム班に分かれ、研究を推進することにした。各班で研究したものを全体会で提案し、研究を推進した。

## ・平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### (1)国語科の授業の充実

- ・子どもたちの興味・関心のある内容から子ども達が伝えたいという意欲を持ち、いろいろな場（宝物あてゲーム・討論会・ポスターセッション）を設定することにより、子どもたちは生き生きと表現することができた。
- ・自分の考えを発表する時、自分の考えをわかりやすく整理するためにワークシートを用いることは、有効であった。
- ・指導計画と一緒に評価計画を作成したことにより、単元を通して評価をすることができるようになった。評価計画の中にA・B両方の基準を書くことにより評価の基準が明確になった。また、学校独自の「話す・聞く」評価カードを作成し、各時間における「話す・聞く」項目の個人の評価を記録として残し指導の参考にすることができた。
- ・「アドバイスカード」や「ふりかえりカード」で相互評価、自己評価することにより、相手意識や目的意識をもって話そうとするようになった。

#### (2)国語科と他教科との関連づけ(授業研究を通して)

- ・国語科で学習したことを他教科で生かしたり、他教科で学習したものを国語科の中で発表したりと国語科との関連的な指導も行うことができ、全教育活動をとおしての実践につながってきた。

#### (3)ぐんぐんタイムの充実(集会活動を通して)

- ・ぐんぐんタイムの時間を設定し、「読む・書く」、「話す」、「計算」の基礎学力の定着にむけて取り組むことができ、子どもたちの基礎的な力が着実についてきた。
- ・発表集会では、話し上手や聞き名人など項目を意識させることにより、よく考えて発表するようになってきた。発表の機会を多く持つことにより、子どもたちにも発表に対する自信がついてきた。

#### (4)その他

- ・国語と算数の到達度診断テストを5月と2月に実施し、児童実態の把握を行い今後の指導の生かすことができた。

### 2. 今後の課題

- ・子どもたちが表現したくなるような体験や単元の構成・多様な表現方法を取り入れていくとともに、伝えるべき相手を明確にした学習の展開をする必要がある。
- ・評価カード等の補助簿については、授業と評価を繰り返していく中で項目等については修正し、より使い易いものとして改良する必要がある。また補助簿を活用し、どう子どもの支援に生かしていくべきか検討していきたい。
- ・表現力の客観的評価を行い、数値化できるように取り組みたい。
- ・「アドバイスカード」や「ふりかえりカード」については、項目を精選し、短時間で継続的に記入できるような工夫が必要である。
- ・他教科との関連的な指導を行う場合、国語科の目標や内容を検討し、年間の見通しにたった計画づくりをしなければならない。
- ・ぐんぐんタイムでは、児童の実態にあった教材プリントを準備する必要がある。

・ 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 定期的な学力調査の実施（学力定着状況の実態調査，国語と算数，5月と2月）
- ・ ぐんぐんタイムでの実態調査（国語・算数の基本の定着状況の実態調査，11月と3月）

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 平成15年度指導資料第1集に「確かな学力を向上させるための学習過程の工夫」を報告（済）
- ・ 今後の予定～平成16年11月中旬に研究発表会実施予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |   |  |      |    |
|----------------------|---|--|------|----|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                                  | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |      |    |
| 【学校規模】               | <input checked="" type="checkbox"/> 6学級以下   | 7～12学級   |      |    |
|                      | 13～18学級                                     | 19～24学級  |      |    |
|                      | 25学級以上                                      |  |      |    |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導   | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導   |      |    |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | その他  |      |    |
| 【研究教科】               | <input checked="" type="checkbox"/> 国語      | 社会   | 算数   | 理科 |
|                      | 生活  | 音楽   | 図画工作 | 家庭 |
|                      | 体育  | その他  |      |    |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有       | 無  |      |    |